

## 衛生管理に係る実践事例



飼育動物の衛生管理を適正に行っていくに当たって、学校担当獣医師から飼育動物の健康診断や飼育環境についての指導・助言等の支援を受けています。



### 新宿区立東戸山小学校

#### 【実践の概要】

- 1・2学期は2年生が中心に、3学期は1年生を中心にヤギの飼育を行いました。
- これまでに受けた助言に加え、新たに気付いたことについても、学校担当獣医師に確認をしながら、飼育動物の環境をよりよくするために改善に取り組みました。
- ヤギの様子に不安がある時には、学校担当獣医師にヤギの健康診断をしてもらい、餌の量や観察のポイントの指導を受け、飼育を行いました。



飼育のポイントについての指導

#### 【児童の反応】

- 適切なえさや水の与え方、ふんや尿の処理の仕方、ヤギの健康状態の観察の仕方など、衛生管理について指導・助言を受けることで、児童がよりよい飼育活動を心がけるようになり、詳しく観察できるようになりました。
- ヤギの様子や飼育について児童が自ら、気付きや疑問をもつことができ、学校担当獣医師に質問することができました。適切な飼育方法について詳しくなることで、児童が自信をもって、主体的に飼育活動に取り組むことができました。



## 大田区立赤松小学校

### 【実践の概要】

- 4月から11月までは2年生、12月からは1年生がモルモットの飼育を行っています。生活科「生きもの 大すき」の時間を、6月、7月、11月、12月に1回ずつ計4回実施しました。
- 学校担当獣医師の助言を受けて、飼育日誌をつけました。モルモットの元気があるか、エサを食べているか、ふんの状態はどうかなどを観察項目にして、日々の飼育活動に生かしています。
- 7月と9月の飼育委員会にて、ウサギの飼育について学校担当獣医師から指導を受けました。



学校担当獣医師による指導

### 【児童の反応】

- モルモットの飼育について、飼育日誌の分担を設け、爪の伸び方、目やふんの様子まで丁寧に観察するようになりました。
- 長期休業中などは、ウサギにとってストレスが蓄積しないようウサギ小屋の環境を考えながら、飼育委員会が中心となり児童が主体的に飼育活動を行っていました。



## 世田谷区立松原小学校

### 【実践の概要】

- 第5、6学年の飼育委員会児童が、衛生管理について、①ウサギの特性と②ウサギを飼育する上で留意することについて指導を受けました。
- ウサギが気温に大きく影響を受ける動物であること、物音に大変敏感でストレスを受けやすいということを基に、どのように抱いたらよいのか、えさや水の量はどのぐらいがよいのか、ふんや尿の処理の仕方、ウサギの健康状態の観察の仕方について学びました。
- 児童のウサギへの対応が大きく変化し、気になったことがあると、すぐに担当教員に報告し、指示を仰ぐことができるようになりました。
- 昨年度に引き続き飼育委員になった児童は、ウサギについての理解が更に深まり、他の児童にウサギの特性や留意点についてすすんで伝える姿が見られました。



学校担当獣医師による指導

### 【児童の反応】

- ウサギの様子について、日々の体重の変化を記録すること、ふんの様子を見ることなど指導を受けたことをしっかりと意識して観察するなど、主体的に活動できるようになりました。
- 飼育する責任とやりがいを感じ、意欲的に活動できるようになりました。
- 初めて知る内容が多く、意欲的に話を聞いていました。また、その話が委員会の活動の質の向上へとつながりました。学校担当獣医師の話を聞くのが2度目の児童もあり、ウサギに対する興味と理解が更に深まりました。
- 経験が豊かな児童は、ウサギの特性や留意点について、すすんで他の児童に教える姿が見られました。



## 青梅市立第四小学校

### 【実践の概要】

- 5、6年生の飼育委員会児童が、3羽のチャボの世話を月曜日から金曜日まで、毎日中休みに飼育活動行い、飼育日誌に記入しています。グループで餌や水やり、飼育小屋の簡単な掃除を行っています。
- 今年度は、学校担当獣医師の助言を受けて、委員会の活動記録や飼育小屋の環境改善に取り組むことができました。



実際にチャボに聴診器をあてながら指導を受ける

### 【児童の反応】

- 学校担当獣医師から直接、衛生管理指導を受けたことにより、委員会児童は自覚をもって意欲的に取り組むようになりました。
  - \*衛生管理指導当日の委員会ファイルより抜粋
    - ・ 体の特徴 雄雌の区別の仕方（とさか・足・尻尾・色・体の大きさ）
    - ・ 病気のサイン（体が膨らんでいる・動きが悪い・じっとしている・餌が減らない  
下痢・食欲不振→体温の低下）
    - ・ 寒さに弱いこと、猛暑時の体調管理など
- 職員室前の廊下に設置している飼育日誌を、登校時に委員会児童が読んでいる姿が何度も見られました。ささいなことでもチャボの様子を気に掛けるようになり、健康状態に関する報告も日々の活動の中で聞かれるようになりました。



## 日野市立豊田小学校

### 【実践の概要】

- 質の高い飼育環境を目指し、学校担当獣医師より、毎学期の委員会活動の時間に、「ヤギの仲間」「食事」「接し方」「ふんの処理」について指導を受けました。
- 昨年度拡張工事をしたヤギ小屋に、今年度は餌台取り付け工事を行い、より衛生的な飼育環境を整備することができました。
- 年間を通して学校担当獣医師からヤギを安全かつ衛生的に飼育できるよう助言を受けました。



学校担当獣医師による飼育委員会児童への指導

### 【児童の反応】

- 学校担当獣医師に、「ヤギの特性」や「安全な触れ方」等を指導してもらったことで、飼育委員会の児童が安心感をもちながら意欲的に飼育活動に関われるようになりました。
- 学校担当獣医師による専門的な助言で、「餌やり」「清掃」「ブラッシング」「散歩」等の飼育活動の質が向上しました。